

教科「商業」における教員採用選考試験問題の考察と現教科書からの問題演習－その4

－「ビジネス情報分野」の科目及び「問題研究・問題演習」を中心に－

富田 律夫（非常勤講師）

1 はじめに

今年3月、新しい高等学校学習指導要領が公示され、現行の同要領をさらに発展する内容になるものと期待されている。とりわけ、「知識の理解の質をさらに高め」⁽¹⁾の表記、幼小中の新しい同要領では「子供たちの知識の理解の質の向上を図り」⁽²⁾として、ともに「学習の質の向上」を意図して、理解することにとどまらず「習得・活用・探究」を目指す旨の姿勢を示している。そのためには、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの確立そしてさらなる授業改善等を求めている。商業においては、「観光立国」を視野に新科目を加え、科目の整理・統合等を行い、これまでの科目数20科目は維持しつつ、より一層の商業教育の発展を目指しているように読み取れる。

一方、学生のうち現4年生は現行の同要領でなくそれ以前の旧要領により履修している。

したがって、旧教科書により学習した学生が採用試験を受験するのは本年度が最後になった。来年度以降は、現行の同要領による教科書を履修した学生が受験することとなる。まさに本年度は、旧・現行・新要領が共存する中で、本県における公立学校教員採用選考試験が実施されたことになる。これらを

踏まえた上で、教科専門における出題内容は、「受験案内」⁽³⁾に示されたとおり、第一次試験が「基本的知識」、第二次試験が「専門的知識」と変更はない。当該試験問題を分析すると、昨今では、現行の同要領における20科目の教科書から取捨選択し出題されているものと考えられる。

さて、これまでの研究実践は、受験生の立場にたち、出題内容について現教科書との関わり、その分析や問題研究・演習を行ってきた。原則履修科目「ビジネス基礎」をはじめ、マーケティング分野の科目、ビジネス経済分野の科目、会計分野の科目、総合的科目「ビジネス実務」について取り扱ってきた。今年度は、ビジネス情報分野の科目について整理・考察、問題研究を進めることとしたい。同分野の出題は、用語に関して選択問題や記述する問題が多い。他の傾向は後述内容にて確認されたい。そこで、今年度は用語に関して、同分野の科目のうち、「情報処理」「ビジネス情報」「電子商取引」の教科書から出題傾向を考察し、問題研究を行いたい。「ビジネス情報管理」「プログラミング」については、出題箇所の整理をすませているが、紙面の都合により次年度以降にゆずりたい。また、ビジネス情報分野の科目について、新しい同要領と現行そして旧の同要領の比較を表示することとする。さらに、「会計分野」における

問題研究については、出題範囲の広がりが高く意識でき、引き続き取り扱うこととしたい。

なお、継続して行っている「簿記実践演習」は、その内容及び成果の記述を残すとともに、これからの方向性を示すこととする。

2 出題内容の整理方法

「情報処理」「ビジネス情報」「電子商取引」における「教科専門Ⅰ及び教科専門Ⅱ」の問題について、現教科書に記述される用語を次のように今年度実施分まで過去8年間整理した。

(1) 現教科書「最新情報処理 新訂版」「ビジネス情報 新訂版」「電子商取引」(実教出版発行)の目次を示し、出題箇所次のように記した。

ア 質問に該当する用語の正答(正しい答)または解答肢(正答でないもの)

イ 質問に用語を示しその説明の選択を解答にした場合(教科専門Ⅰ)、または質問に用語を示し何らかの解答を求めた場合(教科専門Ⅱ)。(以後、「質問肢」と略記)

アの例 ③Ⅰ ピアツーピア ③⇒31年度、

I⇒教科専門Ⅰからの出題。正答

アの例 ③Ⅰ キャッシュメモリ ③⇒31年

度、I⇒教科専門Ⅰからの出題。解答肢

アの例 ③Ⅱ スループット ③⇒31年度、

Ⅱ⇒教科専門Ⅱからの出題。正答

イの例 ②Ⅰ X.O.R回路 ②⇒28年度、I

⇒教科専門Ⅰからの出題。質問肢

イの例 ②Ⅱ 結合 ②⇒29年度、Ⅱ⇒教科専門Ⅱからの出題。質問肢

(2) 教科専門Ⅰは、選択式(4つの中から正答を1つ選ぶ)につき、上記のように正答とともに解答肢を記載した。解答肢は出題傾向を考察する際、有用と考え掲載した。

(3) 教科専門Ⅰは、正答のほか、解答肢は3つあるが、当該教科書の範囲外すなわち他の科目に属する場合などがあり、年度別の数が合わないこともある。

(4) 教科専門Ⅱは、記述式につき正答のみを記載している。解答肢の記載はない。

(5) 31年度から24年度まで、教科専門Ⅰ次に教科専門Ⅱとした。教科専門Ⅰは正答、解答肢の順にした。さらに教科専門Ⅰ及び教科専門Ⅱともに(1)のAを先にイを後にした。

(6) 正答または解答肢が、当該教科書の複数箇所にある場合、1箇所に搾って掲載した。

(7) 「情報処理」における出題動向の考察は、初めに「ビジネス基礎」で学習済みの用語を記述した。同科目は、原則履修科目であるとともに「基礎的な科目」に位置づけられ、関連を注視したいためである。

3 出題動向及び問題研究

(1) 31年度「ビジネス情報分野」の科目における出題について、全般的傾向⁽¹²⁾から⁽²⁷⁾

同分野における出題傾向は、教科専門Ⅰ及び教科専門Ⅱともに、用語の問題と計算問題そしてその他に大別される。言語やシステム開発に関する問題等はあるものの、流れ図に関する問題は、相当期間出題されていない。その上で、配点及び得点を分析すると、例年

基本的に同じである。しかも、基本的な問題が多く出題されている。こうした出題傾向は、商業に関する特定の学科を学んだ受験生が特に有利にならないよう考慮した出題と考え

る。以下に、当該分野における「情報処理」「ビジネス情報」「電子商取引」について、出題動向及び問題研究を進めることとしたい。

(2) 現教科書「最新情報処理 新訂版」

(図01) 「最新情報処理 新訂版」実教出版 目次及び解答・解答肢 (4) (8) (12) から (27)

<p>1 章 情報の活用と情報モラル</p> <p>1 節 ビジネスと情報</p> <p>1 情報の意義と役割</p> <p>③1 I アウトソーシング</p> <p>②9 II アウトソーシング</p> <p>②7 I アウトソーシング</p> <p>2 ビジネスとコンピュータ</p> <p>③0 I B to C ③0 I B to B</p> <p>②8 I EUC ②6 I B to B</p> <p>②6 I B to C ②6 II 電子商取引</p> <p>②4 I B to B ②4 I B to C</p> <p>②4 I DSS</p> <p>3 情報処理システム</p> <p>③1 I クライアントサーバ</p> <p>③1 I POSシステム ③1 I EOS</p> <p>③0 I クライアントサーバーシステム</p> <p>②9 I クラウドコンピューティング</p> <p>②9 I クライアントサーバーシステム</p> <p>②8 I POSシステム</p> <p>②6 I クライアントサーバーシステム</p> <p>②5 I EOS ②5 I POS</p> <p>2 節 情報モラル</p> <p>1 情報セキュリティに関する法規とモラル</p> <p>③1 I セキュリティホール</p> <p>③0 I DoS攻撃</p> <p>③0 II 情報セキュリティ</p> <p>②9 I DoS攻撃 ②9 I なりすまし</p> <p>②7 II セキュリティホール</p> <p>2 インターネットのモラルとマナー</p> <p>②6 I コンプライアンス</p> <p>②6 II フィルタリング</p> <p>3 個人情報の保護</p> <p>4 知的財産の保護</p> <p>③1 I 実用新案権 ③1 I 特許権</p> <p>③1 I 意匠権 ③1 I 商標権</p> <p>③0 I 意匠 ③0 I 実用新案</p> <p>③0 I 商標 ②9 I 著作権</p> <p>②8 I 複製権 ②8 I 同一性保持権</p> <p>②8 I 公表権 ②8 I 氏名表示権</p> <p>②8 II 知的財産権 ②7 I 意匠権</p> <p>②7 I 特許権 ②7 I 実用新案権</p> <p>②7 I 商標権 ②7 I 著作権</p> <p>3 節 ハードウェアとソフトウェア</p> <p>1 ハードウェア</p>	<p>③1 I セクタ ③1 I アクセスアーム</p> <p>③1 I 光の三原色 赤 緑 青</p> <p>③1 I シリンダ ③1 I トラック</p> <p>③1 I メガ、ギガ、テラ、ペタ</p> <p>③1 I キャッシュメモリ</p> <p>②9 I フェムト、ピコ、ナノ、マイクロ</p> <p>②9 II ディスクキャッシュ</p> <p>②8 I ASCIIコード</p> <p>②8 I Unicode</p> <p>②8 I JISコード</p> <p>②8 II IEEE1394</p> <p>②7 I キャッシュメモリ</p> <p>②7 I ディスクキャッシュ</p> <p>②7 I バッファメモリ</p> <p>②7 I VRAM ②6 I 演算装置</p> <p>②6 I 記憶装置 ②6 I 制御装置</p> <p>②6 I KB<MB<GB<TB</p> <p>②6 I イメージスキャナ</p> <p>②6 I OCR ②6 I OMR</p> <p>②5 I シアン ②5 I イエロー</p> <p>②5 I マゼンダ ②5 I B</p> <p>②5 I dpi ②5 II 解像度</p> <p>②5 II 制御装置 ②5 I U.S.B.</p> <p>②4 I TB ②4 I KB ②4 I MB</p> <p>②4 I GB ②4 I サブディレクトリ</p> <p>②4 II 国際標準化機構</p> <p>2 ソフトウェア</p> <p>③1 I レスポンスタイム</p> <p>③1 I ターンアラウンドタイム</p> <p>③1 I スループット</p> <p>③1 II シェアウェア</p> <p>③1 II スループット</p> <p>②9 I CSVファイル</p> <p>②9 I スループット</p> <p>②9 I テキストファイル</p> <p>②9 I バイナリファイル</p> <p>②8 I シェアウェア</p> <p>②8 I フリーウェア</p> <p>②8 II バイナリファイル</p> <p>②7 I MIDI ②7 I AVI</p> <p>②7 I CSV ②7 II BIOS</p> <p>②7 II ターンアラウンドタイム</p> <p>②6 I デバイスドライバ</p> <p>②6 I 袋とじ印刷 ②6 I プラグイン</p>
---	---

<p>②⑥ I パッチ ②⑥ II シェアウェア ②⑥ II ミドルウェア ②④ I ルートディレクトリ ②④ I CSVファイル ②④ I JPEG ②④ I MPEG ②④ I BMP ②④ I GIF ②④ I テキストファイル ②④ I バイナリーファイル ②④ I PDFファイル ②④ II スループット</p> <p>2章 情報通信ネットワークとセキュリティ管理</p> <p>1節 情報通信ネットワークの概要</p> <p>1 情報通信ネットワークの役割</p> <p>③① I FTP ③① I C to C ③① I G to C ③① I EDI ②⑨ I EDI ②⑨ I イントラネット ②⑧ I グループウェア ②⑦ I グループウェア ②⑥ I C to C ②⑥ I G to B ②⑤ I EDI ②④ I FTP</p> <p>2 情報通信ネットワークの構成</p> <p>③① I ビアツーパー ③① I ルータ ③① I シンクライアント ③① II プロトコル ②⑦ II シンクライアント型システム ②⑦ II ルータ ②⑤ I b p s ②④ I TCP/IP</p> <p>3 インターネットのしくみ</p> <p>②⑨ I HTML ②⑨ I XML ②⑧ II DHCP ②⑥ I DNS ②⑥ I DHCP ②⑥ I POP3 ②⑥ I SMTP ②⑤ I DHCPサーバ ②⑤ I DNSサーバ ②④ I ISP ②④ II HTML</p> <p>2節 ビジネス情報の検索と収集</p> <p>1 ウェブページの検索 2 ウェブページの活用</p> <p>3節 ビジネス情報の受信と発信</p> <p>1 電子メールの活用</p> <p>②④ I BCC ②④ I CC</p> <p>2 添付ファイルの活用</p> <p>②⑤ II MIME</p> <p>4節 セキュリティ管理の基礎</p> <p>1 セキュリティ管理の重要性</p> <p>②⑨ I スパイウェア ②⑧ I マルウェア ②⑤ I 復号</p> <p>2 セキュリティの管理</p> <p>③① I ファイアウォール ③① I 公開鍵暗号方式 ③① I 共通鍵暗号方式 ②⑨ I 暗号化 ②⑨ I デジタル署名</p>	<p>②⑨ I ファイアウォール ②⑨ I SSL ②⑦ I 共通鍵暗号方式 ②⑦ I 公開鍵暗号方式 ②⑦ I 電子署名 ②⑦ I SSL ②⑤ I 暗号化 ②⑤ I 公開鍵 ②⑤ I 秘密鍵</p> <p>3章 ビジネス情報の処理と分析</p> <p>1節 基本的な表の作成</p> <p>1 ビジネスにおける表計算ソフトウェアの利用 2 データの入力と計算式の設定</p> <p>2節 関数を利用した表の作成</p> <p>1 基本的な関数 2 よく使う関数 3 応用的な関数</p> <p>②⑧ II MATCH関数 発展学習 金融に関する計算</p> <p>3節 グラフの作成</p> <p>1 種類と概要</p> <p>③① I ヒストグラム ③① I レーダーチャート ③① I ヒストグラム ③① I 散布図 ③① I 折れ線グラフ ②⑦ I 散布図 ②⑥ II ヒストグラム ②④ I レーダーチャート ②④ I 散布図</p> <p>2 基本的なグラフの作成 3 応用的なグラフの作成</p> <p>③① II Zグラフ</p> <p>4節 情報の整列・検索・抽出</p> <p>1 データの整列 2 データの検索・抽出</p> <p>発展学習 データの集計と最適解</p> <p>③① I オペレーションズリサーチ 発展学習 データベースとは</p> <p>③① I E-R図 ③① I トランザクション ③① I コミット ③① II デッドロック ③① I コミット ③① I ロールバック ③① I デッドロック ③① I トランザクション ②⑨ II 結合 ②⑦ I 排他制御 ②⑦ I 参照整合性 ②⑦ I 整合性制約 ②⑦ I 正規化 ②⑦ I デッドロック ②⑦ II 結合 ②⑤ I 参照整合性 ②⑤ I 整合性制約 ②⑤ I エンティティ ②⑤ I 正規化 ②⑤ I 排他制御 ②⑤ II E-R図 ②④ I INSERT INTO</p> <p>5節 ビジネスと統計</p> <p>1 統計の基礎</p> <p>②⑨ I メジアン</p> <p>2 統計的推測と技法</p> <p>③① I パレート図 ②⑨ II パレート図</p>
--	--

<p>25 II 回帰直線 24 I パレート図</p> <p>4章 ビジネス文書の作成</p> <p>1節 ビジネス文書と表現</p> <p>1 ビジネス文書の役割</p> <p>2 ビジネス文書の構成</p> <p>2節 図形と画像の活用</p> <p>1 図形や画像の役割</p> <p>2 画像の活用</p> <p>3節 基本文書の作成</p> <p>1 ワープロの操作と入力方法</p> <p>2 ワープロを利用した文書の作成</p> <p>26 II ルビ</p> <p>3 社外文書</p> <p>4 社内文書</p> <p>24 II 起案書</p> <p>4節 応用文書の作成</p> <p>1 表計算を含んだ文書の作成</p> <p>2 表計算とグラフを含んだ文書の作成</p> <p>3 表現力に富んだ報告書の作成</p> <p>30 I テキストボックス</p> <p>4 その他の機能</p> <p>26 I 差し込み印刷</p> <p>26 I 袋とじ印刷</p> <p>5章 プレゼンテーション</p> <p>1節 プレゼンテーションの技法</p> <p>1 プレゼンテーションの意義と必要性</p> <p>25 I コンペ形式</p> <p>2 プレゼンテーションの基礎</p> <p>31 I プレーンストーミング</p> <p>31 I KJ法</p> <p>29 I プレーンストーミング</p> <p>29 I KJ法 27 II KJ法</p> <p>24 II KJ法</p> <p>2節 ビジネスとプレゼンテーション</p> <p>1 プレゼンテーションソフトウェアの利用</p> <p>2 プレゼンテーションの演習</p> <p>◎ 関連語句のまとめと解説</p> <p>○ 情報の活用と情報モラル</p> <p>○ 情報通信ネットワークとセキュリティ管理</p> <p>31 I アクセスログ</p> <p>31 I MTBF</p> <p>30 I フォールトレラント(システム)</p> <p>29 I フェールセーフ 29 I CA</p> <p>29 I フェールブルーフ</p> <p>28 I フェールブルーフ</p> <p>28 I フェールセーフ</p> <p>28 I フェールソフト</p> <p>28 I フォールトレラント(システム)</p>	<p>26 II フィルタリング</p> <p>26 II プロキシサーバ</p> <p>26 I スパムメール 26 I MTBF</p> <p>24 I MTBF 24 I MTTR</p> <p>○ システムの開発と運用</p> <p>31 I UPS 31 I RAID</p> <p>31 I RASIS 30 I 管理図</p> <p>30 I 特性要因図 30 I RAID</p> <p>29 II スパイラルモデル</p> <p>29 II 線形計画法</p> <p>27 I ウォータフォールモデル</p> <p>27 I アローダイアグラム</p> <p>27 I スパイラルモデル</p> <p>27 I 管理図 27 I 特性要因図</p> <p>27 I パート図 27 I PERT</p> <p>27 II ブラックボックステスト</p> <p>25 II アローダイアグラム</p> <p>25 II クリティカルパス</p> <p>25 II パート図 25 II RASIS</p> <p>24 II スパイラルモデル</p> <p>○ 参考知識</p> <p>31 I デジションテーブル</p> <p>31 I DFD 31 II シェアウェア</p> <p>31 II ニューメリックチェック</p> <p>30 I ホスティングサービス</p> <p>30 I ラジオボタン</p> <p>30 I アライアンス</p> <p>30 I チェックボックス</p> <p>30 I ハウジングサービス</p> <p>30 I リストボックス</p> <p>29 I シーケンスチェック</p> <p>29 I チェックデジットチェック</p> <p>29 I ニューメリックチェック</p> <p>29 II ホワイトボックステスト</p> <p>28 I シーケンスチェック</p> <p>28 I ニューメリックチェック</p> <p>28 I リミットチェック</p> <p>28 I CRM</p> <p>27 I CRMシステム</p> <p>27 I プロトタイプモデル</p> <p>27 I DFD 27 I ERP</p> <p>27 II PPM分析</p> <p>27 II SWOT分析 26 II 決定表</p> <p>26 II デジションテーブル</p> <p>26 II プロトタイプモデル</p> <p>26 II ニューメリックチェック</p> <p>25 I プロセス 25 I データフロー</p> <p>25 I データストア</p>
--	--

ア 出題動向 当該科目に示される用語のうち「ビジネス基礎」に、「国際標準化機構、

コミュニケーション、コンピュータ、コンプライアンス、電子商取引、プレゼンテーショ

ン、B to B、B to C、EC、JIS、POSシステム」などの記述はある。⁽⁷⁾

当該科目は原則履修科目ではないが、商業に関する学科においては、簿記とともに履修している現状がある。原則履修科目「ビジネス基礎」の学習を踏まえて取り扱うことからその関連を示したいがために書き記した。当該分野の5科目のうち、最も多くの用語が出題されていることがわかる。

イ 問題研究 今後に予想される用語を次に示すものとする。紙面の都合により、問題文の形式「次の説明文に該当する用語を解答せよ」を踏まえ、「整理番号 用語の説明文（用語の解答）」の順に記述した。⁽⁸⁾

①情報交換の手段の一つで、キーボードを使用して会話のように文字で情報を交換すること、文字による会話をする（チャット）
②ネットワークにコンピュータを接続するためには、有線や無線に対応する接続用のインタフェースが必要であり、その装置、インタフェースのこと（NIC）
③異なる通信手段により通信しているネットワークどうしを接続する装置（ゲートウェイ）
④インターネット上にある多くのウェブページの中から目的のウェブページを効率よく探すため、キーワードや分野によって検索する機能・データベース（検索エンジン）
⑤インターネットの入り口となるウェブサイト（ポータルサイト）
⑥悪意のあるソフトウェアの一つで、利用者の意思に関係なく広告を表示してしまうもの（アドウェア）
⑦ソフトウェアについて、ウェブサイトなどからダウンロードしてコンピュータにインストールすることに

よりそのソフトウェアを最新の状態にすること（アップデート）
⑧ネットワークの利用者が、ユーザIDとパスワードを入力して認証サーバから認証を受ける操作（ログイン・ログオン）
⑨端数処理の関数の一つで、四捨五入する関数（ROUND関数）
⑩指定したセルの範囲の中で、特定のセル番地の値が昇順または降順で何番目かという順位を求める関数（RANK関数）
⑪文字列を数値に変換する関数（VALUE関数）
⑫表計算ソフトウェアには、最適解を導き出す機能がある。当該ソフトウェアを利用した分析方法で、一つの制約条件から答を導き出す、いわゆる1次方程式の解を求めるもの（ゴールシーク）
⑬商品などの売上構成比率をもとに、商品群を三段階に分類して効率的な商品管理・在庫管理を実現するために用いられる分析（ABC分析）
⑭ワープロを利用し文書を作成するときの機能の一つで、あらかじめ左右に設定した範囲内に文字を入力する機能（インデント）
⑮取引文書の一つで、相手方に対して、債務の履行や契約の義務を果たすように催促する文書（督促状）
⑯企業内で作成される文書の一つで、自分の仕事をすすめていく上でその案件を実施して良いか否かを、決裁権のある上司や上部機関に伺いと承認を求めるための文書（起案書・稟議書）
⑰文書を作成する際に、パソコンに新たに登録した文字（外字）
⑱固有名詞や必要な文字列に、新たに「読み」をつけ、その読みで漢字変換ができるように辞書に登録すること（単語登録）
⑲プレゼンテーションの方向性を定めるため、目的の確認、聴衆分析の内容をまとめた

表（プランニングシート）⑳問題解決の手法の
一つで、少人数のグループにより非公式な討
議を行い、意見を収集しながら進め、解決に
近づける方法（バズセッション）㉑プレゼン
テーションの上達のため、評価結果を吟味し
次回以降の計画に反映させること（フィード
バック）㉒プレゼンテーションのスライドの
領域のことで、点線や実線で囲まれたテキス
トや図などを格納する領域（プレースホルダ）
㉓コンピュータの不測の事態に備え、プログ

ラムやデータなどを別の記憶媒体に複写する
作業（バックアップ）㉔ネットワークを利用
するときのマナー（ネチケット）㉕システム
開発において、下位の機能であるモジュール
から上位の機能であるモジュールへと順にテ
ストを行うこと（ボトムアップテスト）㉖企
業活動に関する目標などを達成するため、業
務内容や組織などの見直しをして最適化する
こと（BPR）

（3）現教科書「ビジネス情報 新訂版」

（図02）「ビジネス情報 新訂版」実教出版 目次及び解答・解答肢 ⁽⁵⁾ ⁽⁹⁾ ⁽¹²⁾ から ⁽²⁷⁾

<p>見返し ㉖ I タブレット</p> <p>第1章 ビジネスと情報</p> <p>第1節 情報化社会とビジネス</p> <p>1項 ビジネスと情報システム</p> <p>2項 業務の改善と情報システム</p> <p>㉑ I E-R図</p> <p>㉑ I プレゼンストーリーミング</p> <p>㉑ I オペレーションズリサーチ</p> <p>㉑ I POSシステム</p> <p>㉑ I KJ法 ㉑ I DFD</p> <p>㉑ I プレゼンストーリーミング</p> <p>㉑ I KJ法 ㉑ I SCMシステム</p> <p>㉑ I CRMシステム</p> <p>㉑ I SFAシステム</p> <p>㉑ I POSシステム</p> <p>㉑ I CRM ㉑ I DFD</p> <p>㉑ I ERP ㉑ I SCM</p> <p>㉑ I SFA ㉑ II KJ法</p> <p>㉑ I プロセス ㉑ I POS</p> <p>㉑ II E-R図 ㉑ II KJ法</p> <p>3項 個人の業務とICT</p> <p>第2節 ネットワークとビジネス</p> <p>1項 インターネットを利用したビジネス</p> <p>㉑ I アウトソーシング</p> <p>㉑ I ホスティングサービス</p> <p>㉑ I ハウジングサービス</p> <p>㉑ II アウトソーシング</p> <p>㉑ I SaaS</p> <p>㉑ I アウトソーシング</p> <p>㉑ I クレジットカード</p> <p>㉑ I 電子マネー ㉑ II 電子商取引</p> <p>2項 ネットワーク社会におけるビジネスの課題</p> <p>㉑ I MTBF</p> <p>㉑ I RASIS</p>	<p>㉑ I デュアルシステム</p> <p>㉑ I デュプレックスシステム</p> <p>㉑ I フォールトトレラントシステム</p> <p>㉑ II コーポレートガバナンス</p> <p>㉑ I フェールセーフ</p> <p>㉑ I デジタル署名</p> <p>㉑ I フールプルーフ</p> <p>㉑ II CSR ㉑ I フールプルーフ</p> <p>㉑ I フォールトトレラントシステム</p> <p>㉑ I フェールセーフ</p> <p>㉑ II IEEE1394</p> <p>㉑ I コンプライアンス</p> <p>㉑ I CSR ㉑ I MTBF</p> <p>㉑ II RASIS ㉑ I MTBF</p> <p>㉑ I MTTR</p> <p>㉑ II コーポレートガバナンス</p> <p>㉑ II 国際標準化機構</p> <p>第2章 情報通信ネットワークの活用</p> <p>第1節 ネットワークの基礎</p> <p>1項 ネットワークの構成とハードウェア</p> <p>㉑ I RAID ㉑ I RAID</p> <p>㉑ I bps</p> <p>2項 ネットワークの利用とソフトウェア</p> <p>㉑ I DNSサーバ</p> <p>第2節 ネットワークの構築と管理</p> <p>1項 ネットワークの構築手順</p> <p>㉑ II リンクアグリゲーション</p> <p>2項 ネットワークの設定手順</p> <p>第3節 サーバ管理</p> <p>1項 アクセス管理</p> <p>㉑ II ディスククォータ</p> <p>2項 ファイルサーバの管理</p> <p>3項 認証サーバの管理</p> <p>第4節 セキュリティ管理</p>
---	--

<p>1項 ファイアウォールやサーバによるデータ保護</p> <p>③I ファイアウォール</p> <p>②I ファイアウォール</p> <p>2項 セキュリティポリシーの管理</p> <p>③II 情報セキュリティ</p> <p>3項 データの保護</p> <p>第3章 表計算ソフトウェアの活用</p> <p>第1節 集計処理</p> <p>1項 複数シートの利用</p> <p>2項 グループ集計</p> <p>3項 クロス集計(ピボットテーブル)</p> <p>第2節 オペレーションズリサーチの基礎</p> <p>1項 オペレーションズリサーチ</p> <p>③I パレート図 ②II パレート図</p> <p>②I パレート図</p> <p>2項 シミュレーションと線形計画法</p> <p>②II 線形計画法</p> <p>3項 待ち行列</p> <p>4項 販売管理</p> <p>③I ヒストグラム ③I 散布図</p> <p>③I ヒストグラム ②I 散布図</p> <p>②II ヒストグラム ②I 散布図</p> <p>第3節 ビジネス計算</p> <p>1項 販売に関する計算</p> <p>③II Zチャート(Zグラフと同義)</p> <p>③II 損益分岐点 ②II PPM分析</p> <p>2項 資金繰りの計算</p> <p>第4節 手続きの自動化</p> <p>1項 手続きの記録と実行</p> <p>2項 メニューの作成</p> <p>3項 相対参照で記録</p> <p>第4章 データベースソフトウェアの活用</p> <p>第1節 ビジネス情報とデータベース</p> <p>1項 データベースの活用例</p> <p>2項 データベースの特徴</p> <p>②I 排他制御</p> <p>②I 排他制御</p> <p>3項 表計算ソフトとデータベースソフトの違い</p> <p>4項 リレーショナルデータベースの概要</p> <p>②II 結合 ②II 結合</p> <p>②I リレーショナル(型)データベース</p> <p>第2節 データベースの利用</p> <p>1項 データベースを作成してみよう</p> <p>2項 データを検索してみよう</p> <p>3項 フォームに表示してみよう</p> <p>4項 レポートに出力してみよう</p> <p>5項 マクロを作成してみよう</p> <p>第3節 SQLの操作</p> <p>1項 SQL</p> <p>2項 SQLの基本操作</p>	<p>②I INSERT INTO</p> <p>第5章 ソフトウェアを活用したシステム開発</p> <p>第1節 システム開発の基礎</p> <p>1項 システム開発の概要</p> <p>2項 ソフトウェア開発モデル</p> <p>②II スパイラルモデル</p> <p>②I ウォータフォールモデル</p> <p>②I スパイラルモデル</p> <p>②I プロトタイプモデル</p> <p>②II プロトタイプモデル</p> <p>②II スパイラルモデル</p> <p>3項 ソフトウェアの開発手法</p> <p>②I エンティティ</p> <p>②I データフロー</p> <p>②I データストア</p> <p>4項 インタフェース設計</p> <p>③I ラジオボタン</p> <p>③I リストボックス</p> <p>③I チェックボックス</p> <p>③I テキストボックス</p> <p>③II ユニバーサルデザイン</p> <p>②II ユニバーサルデザイン</p> <p>②I ユニバーサルデザイン</p> <p>②II ユニバーサルデザイン</p> <p>5項 テストと保守</p> <p>③II ニューメリックチェック</p> <p>②I シーケンスチェック</p> <p>②I ニューメリックチェック</p> <p>②I シーケンスチェック</p> <p>②I リミットチェック</p> <p>②I ニューメリックチェック</p> <p>②I 重複チェック</p> <p>②II ブラックボックステスト</p> <p>②II ニューメリックチェック</p> <p>第2節 アルゴリズムの基礎</p> <p>1項 流れ図とデータ</p> <p>2項 アルゴリズムの基本設計</p> <p>3項 応用的なアルゴリズム</p> <p>第3節 表計算ソフトウェアによる開発</p> <p>1項 プログラミング機能の利用</p> <p>②I デバッグ ②II デバッグ</p> <p>2項 ユーザフォームの利用</p> <p>3項 システムの作成</p> <p>第4節 データベースソフトウェアによる開発</p> <p>1項 データベースの設計</p> <p>②I 正規化 ②I 正規化</p> <p>2項 データベースのシステム設計</p> <p>3項 システムの作成</p> <p>②I 参照整合性 ②I 参照整合性</p>
--	---

ア 出題動向 当該科目には、表計算ソフトウェアの活用の単元があり、ビジネス計算、財務会計、原価計算、管理会計にて取り扱うことを情報処理システムにより対応する場面がある。⁽⁹⁾ また、他の単元を含め同科目は、履修状況に相当のばらつきがあり、出題されている用語は、比較的少ないことがわかる。

イ 問題研究 今後に予想される用語を次に示すものとする。⁽⁹⁾ 紙面の都合により、前記の「最新情報処理 新訂版」と同様にした。

- ①情報技術を活用した問題の解決を顧客に提案し、これを実現するシステムを提供するビジネス（ソリューションビジネス）
- ②標準化団体が定めている規格ではないが、多数が利用することによって事実上の標準となっている規格（デファクトスタンダード・業界標準）
- ③安心してコンピュータやネットワークなどを利用でき、危険を回避するために、あらかじめ基本的な方針や行動指針を規則として決めたもののこと（セキュリティポリシー）
- ④集計処理機能の一つで、クロス集計機能・その集計表（ピボットテーブル）
- ⑤限られた人員・資金・原料などの資源を有効活用し、利

- 益や費用などの目的を最大限（又は最小限）にするための意思決定を数学的に行う方法の総称（OR・オペレーションズリサーチ）
- ⑥スーパーやコンビニなどで、顧客がレジに到着した時、サービスを受ける順番がくるまでの行列（待ち行列）
- ⑦数日にわたる商品の売上高などの推移を明確に示し分析する方法で、基準を100%として、数期分のデータ変動の割合を比率で表すグラフ（ファンチャート）
- ⑧情報の集まりを所定の目的のために、検索しやすいように整理してコンピュータに記憶・蓄積させたもののこと（データベース）
- ⑨人間がもつデータをコンピュータに入力したり、コンピュータのデータを人間が理解しやすいように出力したりする機能（インタフェース）
- ⑩利用者が、簡易にデータ入力をユーザフォームにできるようにするためのコントロールの一つで、複数のボタンをグループとして取り扱い、そのうちの一つのボタンだけを選択できる機能を持ったコントロール（オプションボタン）
- ⑪ソフトウェアの開発技法の一つで、システムの完成イメージを作成して、評価しながらそのイメージを順次完成品に近づいていく方法（RAD）

（4）現教科書「電子商取引」

〔図03〕「電子商取引」実教出版 目次及び解答・解答肢 ^{(6) (10) (12) から (27)}

<p>第1章 情報通信技術の進歩とビジネス</p> <p>1 ビジネスの変化</p> <p>1 ビジネスの形態</p> <p>③0 I E C ③0 I B to C</p> <p>③0 I B to B ③0 I C to C</p> <p>②6 I C to C ②6 I B to B</p> <p>②6 I B to C ②6 II 電子商取引</p> <p>②4 I B to B ②4 I B to C</p> <p>2 ビジネスの広告・広報活動</p>	<p>②9 II パナー広告 ②5 II パナー広告</p> <p>2 情報通信ネットワークの活用と課題</p> <p>1 企業の役割と業務</p> <p>③0 I ハウジングサービス</p> <p>②4 I ISP</p> <p>2 個人情報と知的財産権の保護</p> <p>②8 II 知的財産権</p> <p>第2章 コンテンツの制作</p> <p>1 ファイルの形式</p>
--	--

<ul style="list-style-type: none"> 1 図形ファイルの形式 2 静止画ファイルの形式 <ul style="list-style-type: none"> ②⑦ I BMP ②⑤ I d p i ②⑤ II 解像度 ②④ I J P E G ②④ I BMP ②④ I G I F 3 動画ファイルの形式 <ul style="list-style-type: none"> ②⑦ I A V I ②④ I M P E G 4 音声ファイルの形式 <ul style="list-style-type: none"> ③⑩ I サンプリング ②⑦ I M I D I ②④ II 量子化 2 図形 <ul style="list-style-type: none"> 1 基本図形の取り込みと編集 2 組織図の取り込みと編集 3 グラフの取り込みと編集 3 静止画 <ul style="list-style-type: none"> 1 静止画の取り込み <ul style="list-style-type: none"> ②⑥ I イメージスキャナ 2 静止画の編集 <ul style="list-style-type: none"> ③⑩ I ヒストグラム ③⑩ I ヒストグラム ②⑥ II ヒストグラム 4 動画 <ul style="list-style-type: none"> 1 動画の取り込み 2 動画の編集 5 音声 <ul style="list-style-type: none"> 1 音声の取り込み 6 情報の統合 <ul style="list-style-type: none"> 1 統合の方法 2 統合の手順 3 統合の技法と活用 第3章 ウェブデザインと広告・広報 <ul style="list-style-type: none"> 1 ウェブページ制作までの手順 <ul style="list-style-type: none"> 1 分析と企画・立案 2 制作の手順と方法 <ul style="list-style-type: none"> ②⑨ I H T M L ②④ II スクリプト ②④ II H T M L 2 ウェブデザイン設計 <ul style="list-style-type: none"> 1 ウェブデザインの基礎 <ul style="list-style-type: none"> ③① I ウェブデザイン ③⑩ II アクセシビリティ 2 配色 <ul style="list-style-type: none"> ②⑤ I シアン ②⑤ I イエロー ②⑤ I マゼンダ ②④ I 補色 ②④ I 明度 ②④ I 彩度 ②④ I 色相 3 フォント <ul style="list-style-type: none"> ②⑤ II プロポーショナル(フォント) 4 ロゴデザイン 3 ウェブページ制作の基礎 <ul style="list-style-type: none"> 1 タグの直接入力による制作 2 ウェブページ作成ソフトウェアによる制作 3 ワープロソフトウェアによる制作 4 ウェブページ制作の応用 	<ul style="list-style-type: none"> 1 CMSの利用 2 CMSによるウェブサイトの構築例 第4章 ウェブページの公開 <ul style="list-style-type: none"> 1 ネットワーク機器の種類と機能 <ul style="list-style-type: none"> 1 公開に用いられるネットワーク技術 <ul style="list-style-type: none"> ③⑩ II プロトコル ②④ I T C P / I P 2 公開に用いられるネットワーク機器と通信回線 <ul style="list-style-type: none"> ③① I ルータ ②⑦ II ルータ 2 公開の方法 <ul style="list-style-type: none"> 1 公開のしくみ <ul style="list-style-type: none"> ③① I F T P ②④ I F T P 2 公開 <ul style="list-style-type: none"> ③① I アクセスログ 3 独自サーバの導入 <ul style="list-style-type: none"> ③① I U P S ③① I R A I D ③⑩ I R A I D ②⑥ I S M T P ②⑤ I S M T P サーバ ②⑤ I D N S サーバ ②⑤ I P O P サーバ 第5章 電子商取引とビジネス <ul style="list-style-type: none"> 1 電子商取引のしくみ <ul style="list-style-type: none"> 1 電子商取引の概要 <ul style="list-style-type: none"> ③⑩ I E D I ③⑩ II ニッチ戦略 ②⑨ I E D I ②⑨ I V P N ②⑧ II ロングテール ②⑤ I E D I 2 電子商取引に関する法規 <ul style="list-style-type: none"> ③① I 実用新案権 ③① I 特許権 ③① I 意匠権 ③① I 商標権 ③⑩ II 情報セキュリティ ②⑨ I 著作権 ②⑦ I 意匠権 ②⑦ I 特許権 ②⑦ I 実用新案権 ②⑦ I 商標権 ②⑦ I 著作権 3 電子商取引を行うための手順 <ul style="list-style-type: none"> ②⑦ II 成長期 ②⑦ II P P M 2 企業間取引と企業対消費者間取引 <ul style="list-style-type: none"> 1 企業間取引 <ul style="list-style-type: none"> ③① I P O S システム ③① I E O S ②⑧ I P O S システム ②⑤ I E O S ②⑤ I P O S 2 企業対消費者間取引 <ul style="list-style-type: none"> ②⑧ II クーリングオフ ②⑧ II 8日間 ②⑥ I プリペイドカード 3 情報通信ネットワークを活用したその他のビジネス <ul style="list-style-type: none"> ②⑨ I クラウドコンピューティング ②⑧ I S a a S ②⑧ I I a a S ②⑧ I P a a S 3 電子決済のしくみと方法 <ul style="list-style-type: none"> 1 電子決済のしくみ <ul style="list-style-type: none"> ②⑥ I 電子マネー 2 電子商取引における決済方法
---	---

<p>㊦ Iクレジットカード</p> <p>4 電子商取引システムの作成</p> <p>1 電子商取引のシステム構築 (1)</p> <p>2 ショッピングカート</p> <p>3 実際の取引 (1)</p>	<p>4 受注管理 (1)</p> <p>5 電子商取引のシステム構築 (2)</p> <p>6 実際の取引 (2)</p> <p>7 受注管理 (2)</p>
--	--

ア 出題動向 当該科目は旧要領の「文書デザイン」を再構成したものである。なお、情報通信技術を電子商取引に応用すること、同取引によるビジネスを始めるための手順及び同取引に関する法規を扱うこととしているが、この部分における学習は現在定着しつつある。このことを含めその基本的な事柄について出題されているものとする。⁽³⁰⁾

イ 問題研究 今後に予想される用語を次に示すものとする。⁽¹⁰⁾ 紙面の都合により、前記の「最新情報処理 新訂版」と同様にした。

①相手のメールアドレス利用の許可が取れている場合でも、個人情報保護の観点から確認のメールを送信相手から返信してもらう二重の配慮 (ダブルオプトイン) ②ベクタ方式の図形データを保存するための汎用的なファイル形式であり、他のソフトウェアでも利用が可能なものこと (EPS) ③コンピュータに取り込んだ写真や画像について、その一部分を切り取る作業 (トリミング) ④画像や写真など、明るい部分と暗い部分との対比 (コントラスト) ⑤画像に与える効果の一つで、指定した正方形にピクセルを集めて処理すること (モザイク効果) ⑥画像を切り替える効果の一つで、一つの画像を縦方向に分裂させながら一部分を消していき、次の画像を表示していく効果 (スプリット) ⑦画像を加工す

る特殊効果の一つで、画像を垂直 (又は水平) 方向に鏡像反転をさせる効果 (ミラー) ⑧文字、静止画、動画、音声などの情報からアプリケーションを作成するときに、その作業を支援するソフトウェア (オーサリングソフトウェア) ⑨ウェブページの使いやすさのことであり、その利用者が目的とする情報を正確かつすばやくたどりつけるかの度合い (ユーザビリティ) ⑩ウェブレイアウトの一つで、スクロールせずにすべてが閲覧できる領域が一つのレイアウト。写真や動画などのコンテンツに適した型。(ワンボックス型) ⑪企業や店舗、団体、商品などのイメージを文字や図を使用してデザイン化したもの。大きく三つの種類がありシンボルマークはその一つ。(ロゴ) ⑫異なるプロトコル間を接続する装置。異なるプロトコルのトラフィックを相互に変換して通信を可能にするとともに異機種間の通信を可能にする装置。(ゲートウェイ) ⑬検索エンジンから、自社のウェブサイトへのアクセス数を増やすマーケティング手法 (SEM) ⑭電子商取引において、当該ウェブページをアクセスした顧客のうち、実際の購入者の割合 (コンバージョン率) ⑮個人情報保護方針 (プライバシーポリシー)

4 新しい高等学校学習指導要領と現行の同要領そして旧要領における当該分野の科目の比較

(図04) 現行の高等学校学習指導要領解説
商業編⁽³⁰⁾

平成22年5月発行 P9 商業科の科目編成(抜粋)

現行の高等学校学習指導要領におけるビジネス情報分野	旧要領における経営情報分野	備考
情報処理	情報処理	
ビジネス情報	ビジネス情報	
電子商取引	文書デザイン	再構成
プログラミング	プログラミング	
ビジネス情報管理		新設

(図05) 新しい高等学校学習指導要領解説
商業編⁽³¹⁾

平成30年7月公示 P17 商業科の科目編成(抜粋)

新しい高等学校学習指導要領におけるビジネス情報分野	現行の高等学校学習指導要領におけるビジネス情報分野	備考
情報処理	情報処理	
ソフトウェア活用	ビジネス情報	名称変更
プログラミング	プログラミング	整理統合
ネットワーク活用	電子商取引	再構成
ネットワーク管理	ビジネス情報管理	分離

(1) 現行の同要領は旧要領と比較し、特に、電子商取引に関する内容を追加したこと、ビジネスの諸活動におけるコンピュータや情報通信ネットワークの利用拡大にともない、その構築・運用管理・システム開発などの内容を取り扱う「ビジネス情報管理」を新設したことなどである。⁽³⁰⁾

(2) 新しい学習指導要領は現行の同要領と比較し、科目の一部に名称変更等があるものの新設科目はない。特に、プログラミング教育が強調されるに至った関係から、「情報処理」において「情報を適切に表現し、活用できるようにする視点から、情報デザイン及び問題の発見と解決の方法に関する指導項目を取り入れた」ことや「ネットワーク管理」における情報セキュリティ管理の記述など、内容の充実が図られている。⁽³¹⁾ この他については、今後の研究にゆずることとしたい。

5 「会計分野」における動向と今後の問題研究

本年度実施分における「教科専門Ⅱ」の問題において次の特徴が見られた。⁽²⁰⁾ から⁽²⁷⁾

(1) 仕訳の出題について、「勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと」とし、これまでのように一取引ずつ仕訳する形式でなかった。

(2) その仕訳問題の1つに、日商簿記検定2級の範囲からファイナンス・リース取引が出題された。利子込み法による会計処理との指示がある。教科書「財務会計Ⅱ」の中にその単元はあるものの、どちらかと言えば、勘定科目の一覧表示とともに検定問題の形式に準じた設問になっていることがわかる。

(3) 財務諸表分析の1問について、これまでのような比率法による計算結果にとどまるのではなく、その比率を活用した説明文をうめる問題であった。今回は、報告式損益計算書の金額の一部が空欄になっており、手順と

して、資料にある比率を用いてその空欄をうめるとともにさらなる比率を算出した上で、それらを活用し、文章を完成するものであった。情報活用能力を問う適切な問題であり、現行の教科書そして知識・技術の定着を図る検定試験においても取り扱われているものであった。今後は、こうした形式の問題が増え

てくることが期待される。

(4) 問題研究

今後に予想される問題と解答を示すこととする。紙面の都合により、さらに次号以降に追加をしたい。

ア 「財務会計Ⅰ」からの問題と解答

(図06) 非支配株主持分に関する問題と解答

《問題1》A社はB社が発行する株式80%を¥3,150,000で取得して子会社とした。なお、支配獲得日におけるB社の貸借対照表は以下の資料の通りであった。よって、連結修正仕訳における非支配株主持分の金額を計算し答えよ。ただし、資産及び負債の帳簿価額は時価と等しいものとする。

【資料】 B社		貸借対照表	
現金預金	1,750,000	買掛金	950,000
受取手形	650,000	支払手形	750,000
売掛金	800,000	資本金	2,800,000
商品	750,000	資本剰余金	950,000
土地	<u>1,500,000</u>		
	<u>5,450,000</u>		<u>5,450,000</u>

解答 ¥ 750,000

《解説》非支配株主持分 $(5,450,000 - 950,000 - 750,000) \times 0.2$ または $(2,800,000 + 950,000) \times 0.2 = 750,000$

《問題2》A社はB社が発行する株式70%を¥3,150,000で取得して子会社とした。なお、支配獲得日におけるB社の貸借対照表は以下の資料の通りであった。よって、連結修正仕訳における非支配株主持分の金額を計算し答えよ。ただし、同日におけるB社の土地時価は¥1,600,000であり、その他の資産及び負債の帳簿価額は時価と等しいものとする。

【資料】 B社		貸借対照表	
現金預金	1,750,000	買掛金	950,000
受取手形	650,000	支払手形	750,000
売掛金	800,000	資本金	2,800,000
商品	750,000	資本剰余金	950,000
土地	<u>1,500,000</u>		
	<u>5,450,000</u>		<u>5,450,000</u>

解答 ¥ 1,155,000

《解説》土地の評価差額¥100,000は純資産（仕訳⇒ 土地 100,000 評価差額 100,000）のれん⇒ $3,150,000 - (2,800,000 + 950,000 + 100,000) \times 0.7 = 455,000$
 ●非支配株主持分 $(2,800,000 + 950,000 + 100,000) \times 0.3 = 1,155,000$

《問題3》上記《問題1》及び《問題2》において、A社はB社が発行する株式100%を¥4,150,000で取得して子会社とした場合、その非支配株主持分は0である。A社以外には株式取得がないためである。

イ 「財務会計Ⅱ」(日商簿記2級の範囲)からの問題と解答

(図07) 取引の仕訳に関する問題と解答⁽²⁹⁾

1	愛知商事株式会社は、将来の経費削減に確実に役立つので、自社利用目的でソフトウェア¥250,000を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。
	(借) ソフトウェア 250,000 (貸) 当座預金 250,000
2	三重商店は、決算にあたり自社利用目的で購入したソフトウェア(取得原価¥500,000)について定額法により償却した。なお、このソフトウェアの利用可能期間は5年と見積もられている。
	(借) ソフトウェア償却 100,000 (貸) ソフトウェア 100,000
3	7月1日アメリカの仕入先より商品2,000ドルを掛けで購入した。この時の為替相場は1ドル¥110であった。
	(借) 仕入 220,000 (貸) 買掛金 220,000
4	8月25日商品代金2,000ドルを支払うために、取引銀行でドルに両替し、当座預金口座より仕入先に送金した。支払時の為替相場は1ドル¥105であった。
	(借) 買掛金 220,000 (貸) 当座預金 210,000 為替差損益 10,000
5	3月5日アメリカの得意先に商品2,000ドルを輸出し代金は掛けとした。代金の決済は5月15日の予定であり、3月5日の為替相場は1ドル¥100であった。
	(借) 売掛金 200,000 (貸) 売上 200,000
6	上記5について、3月31日が決算日である。決算日の為替相場は1ドル¥106であった。
	(借) 売掛金 12,000 (貸) 為替差損益 12,000
7	上記6について、5月15日商品代金2,000ドルの送金があり、取引銀行で円貨に両替し当座預金口座に入金した。5月15日の為替相場は1ドル¥104であった。
	(借) 当座預金 208,000 (貸) 売掛金 212,000 為替差損益 4,000

ウ 「管理会計」からの問題と解答

(図08) 機会原価に関する問題と解答⁽¹¹⁾

【問題】A案、B案、C案、D案は、ある意思決定問題解決のための選択案である。それぞれの案を選択した場合に得られるであろう収益と発生が見込まれる原価は次のとおりである。ついては、最大の利益をもたらす案を選択した場合の機会原価を求めよ。

	A案	B案	C案	D案
売上高	6,000,000	5,000,000	5,500,000	7,000,000
製造原価	4,000,000	3,500,000	4,000,000	4,500,000

【解答】機会原価 2,000,000 (A案) …… 【解説】代替案が複数あるとき、選択されなかった代替案の中で得られたであろう最大の利益(代替案の中で犠牲にした最大の利益)が機会原価。なお、最大の利益をもたらす案…¥2,500,000のD案

【参考】原則履修科目「ビジネス基礎」においては、「機会費用」として学習したが、会計用語は「機会原価」を使用している。そんな関連ある用語につき、「管理会計」に単元があるものの、出題されることが考えられる。

6 簿記実践演習の成果及び継続の必要性

簿記実践演習は、「会計分野」における科目及び日商簿記2級の範囲をはじめ、ビジネス計算、経済活動と法の他、マーケティング分野及びビジネス経済分野の科目に関する問題を解いている。とりわけ、「会計分野」における科目は、現在では、財務会計Ⅱまたは管理会計からの問題について対応する必要性が生じている。については、それらの問題について理解を深めるために、今年度も、時として、解答に至る説明を学生自身が行い、自信をつけるよう目論んだ。また、教師を志す過年度の卒業生に、希望する場合、当該演習の教材を提供した。また、本県以外を受験する学生のために、当該県や隣接県において出題された問題を解くように努めた。

こうした取り組みにより、「教科専門Ⅰ及び教科専門Ⅱ」における「会計分野」の正解度は、全問正解に向けて着実に力を蓄えつつある。今年の結果報告からは、到達目標に近づきつつあると判断している。今後も、工夫や改善を試みながら継続していきたい。

7 おわりに

次年度に採用試験を受験する学生は、現教科書により学習した者となる。現行学習指導要領や現教科書とともに、このたび公示された新しい学習指導要領も視野に入れる必要がある。今年度実施分の教職教養⁽²⁸⁾を考察すると、小学校や中学校の学習指導要領に関する問題は、新しい同要領から出題されている。いずれにしても今後は、現教科書や新しい同

要領からこれまで以上に工夫され作問されることと考える。本県では、商業に関する学科を学ぶ高校生は、原則履修科目「ビジネス基礎」の他に「簿記」「情報処理」をすべて学習している現状がみられる。については、これまでの出題動向を踏まえ、これらの3科目をはじめ必要な問題演習に取り組むこと、とりわけ「会計分野」の問題は配点からすると全問正解できる力を培うことが肝要であり簿記実践演習が必要不可欠であると言える。基本的な問題とともに予想される問題、さらに検定試験問題なども斟酌して演習に取り組んでいくこととしたい。結びに、本県の出題について考察するとき、例年同様、特定の学科を学んだ受験生が特に有利にならないよう考慮されていることに変更はなく、このことを踏まえさらなる努力を重ねていきたい。

参考文献

- 1 高等学校学習指導要領の改訂のポイント 平成29年4月 文部科学省ホームページ
- 2 幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント 平成29年4月 文部科学省ホームページ
- 3 平成31年度愛知県公立学校教員採用選考試験受験案内 P14 P16 愛知県教育委員会
- 4 平成30年度用文部科学省検定済高校教科書「最新情報処理 新訂版」目次 実教出版ホームページ
- 5 平成30年度用文部科学省検定済高校教科書「ビジネス情報 新訂版」目次 実教出版ホームページ
- 6 平成30年度用文部科学省検定済高校教科書「電子商取引」目次 実教出版ホームページ
- 7 文部科学省検定済高校教科書 [7実教商業334](#)「ビジネス基礎 新訂版」平成29年1月発行 実教出版
- 8 文部科学省検定済高校教科書 [7実教商業343](#)「最新情報処理 新訂版」平成29年1月発行 実教出版
- 9 文部科学省検定済高校教科書 [7実教商業352](#)「ビジ

- ネス情報 新訂版」平成30年1月発行 実教出版
- 10 文部科学省検定済高校教科書 **7実教商業331**「電子商取引」平成30年1月発行 実教出版
- 11 文部科学省検定済高校教科書 **7実教商業330**「管理会計」平成27年1月発行 実教出版
- 12 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅰ」平成31年度 愛知県教育委員会
- 13 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅰ」平成30年度 愛知県教育委員会
- 14 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅰ」平成29年度 愛知県教育委員会
- 15 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅰ」平成28年度 愛知県教育委員会
- 16 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅰ」平成27年度 愛知県教育委員会
- 17 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅰ」平成26年度 愛知県教育委員会
- 18 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅰ」平成25年度 愛知県教育委員会
- 19 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅰ」平成24年度 愛知県教育委員会
- 20 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅱ」平成31年度 愛知県教育委員会
- 21 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅱ」平成30年度 愛知県教育委員会
- 22 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅱ」平成29年度 愛知県教育委員会
- 23 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅱ」平成28年度 愛知県教育委員会
- 24 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅱ」平成27年度 愛知県教育委員会
- 25 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅱ」平成26年度 愛知県教育委員会
- 26 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅱ」平成25年度 愛知県教育委員会
- 27 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 教科「商業」
「教科専門Ⅱ」平成24年度 愛知県教育委員会
- 28 愛知県公立学校教員採用選考試験問題 「教職・教養」
平成31年度 愛知県教育委員会
- 29 **【日商簿記】** 出題区分表改定 2級・新規論点に関するサンプル問題 2015 日本商工会議所事業部
- 30 高等学校学習指導要領解説 商業編 平成22年5月発行 文部科学省
- 31 高等学校学習指導要領解説 商業編 平成30年7月文部科学省ホームページ